

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）	1
1. 人文社会科学部	3
2. 社会文化システム研究科	6
3. 地域教育文化学部	8
4. 地域教育文化研究科	11
5. 医学部	14
6. 医学系研究科	17
7. 理学部	19
8. 工学部	22
9. 理工学研究科	25
10. 有機材料システム研究科	28
11. 農学部	30
12. 農学研究科	33
13. 教育実践研究科	35

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	教育活動の状況		教育成果の状況	
	【2】	相応の質にある	【3】	高い質にある
人文社会科学部	【2】	相応の質にある	【3】	高い質にある
社会文化システム研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
地域教育文化学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
地域教育文化研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
医学部	【2】	相応の質にある	【3】	高い質にある
医学系研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
理学部	【2】	相応の質にある	【3】	高い質にある
工学部	【3】	高い質にある	【2】	相応の質にある
理工学研究科	【4】	特筆すべき高い質にある	【2】	相応の質にある
有機材料システム研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
農学部	【3】	高い質にある	【2】	相応の質にある
農学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
教育実践研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある

1. 人文社会科学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 4)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 5)

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 学部の附属研究施設である「山形映像文化研究所」では、平成 29 年度に山形ドキュメンタリー映画祭の開催に合わせ、フィリピンから研究者を招いて交流イベント「フィリピンウィーク」としてパネルディスカッション「フィリピン映画の現在」を実施した。一方、「やまがた地域社会研究所」では、山形県から「きらりと光る村山の企業・技術」事業を受託し、学生が地元企業を取材し、その技術や魅力を SNS で発信した。
- 地域企業からの外部資金によって、専門教育授業科目「労働と生活」「暮らしとマネー」が寄附講義として開講されている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 高い質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

平成 28 年度に民間企業が主催するマーケティング分析コンテスト 2016 で佳作を、平成 29 年度に全国老人福祉施設協議会主催の第 10 回介護作文・フォトコンテストの作文・エッセイ学生部門において佳作を、日本フードサービス協会及び日本フードサービス学会が主催する外食インカレ 2019 において金賞等を受賞するなど、学生の受賞が増加している。

〔優れた点〕

○ 平成 28 年度に、民間企業が主催する「マーケティング分析コンテスト 2016」で山形大学学生 2 名による作品が佳作に入選した。平成 29 年度には、全国老人福祉施設協議会が主催する「第 10 回介護作文・フォトコンテスト」の「作文・エッセイ学生部門」において山形大学学生が佳作を受賞した。平成 30 年度には、公益財団法人フランス語教育振興会が主催する実用フランス語技能検定試験（仏検）の秋期試験において、山形大学学生が 4 級を満点合格し、個人部門で表彰された。また、全国フランス語スピーチコンテストフリースピーチ部門において、山形大学学生が準優勝に輝いた。さらに、一般社団法人日本フードサービス協会、日本フードサービス学会が主催する「外食インカレ 2018」にて山形大学学生 3 名が奨励賞、「外食インカレ 2019」では山形大学学生 3 名が金賞を受賞しており、多様な分野において全国レベルの受賞が増加した。

〔特色ある点〕

○ 平成 28 年度に文部科学省「大学教育再生加速プログラム テーマⅤ 卒業時における質保証の取組の強化」の採択を受け、山形大学における基盤教育の到達度を直接測定するための「基盤力テスト」を開発、実施している。当該テストは 6 つの領域（文系用の「数的文章理解」「語彙力」、理系用の「数学」「物理」「化学」「生物」）で構成され、実施に当たっては、限られた時間で効果的かつ効率的に実施できるよう現代テスト理論（項目反応理論）を取り入れるためのスマートフォンアプリである「YU Portal」を独自開発している。

2. 社会文化システム研究科

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 7)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 7)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔優れた点〕

- 早期履修制度として、学部4年次に科目等履修生として大学院科目を先取り受講し、学部修了後に推薦入学により進学し、1年間で修士を取得するプログラムが設置されている。学部とあわせて5年間で修士課程を終え、学費を軽減することができる。

〔特色ある点〕

- 修士論文にまとめられた成果は『社会文化システム研究科研究論文集』の形で公表されている。大学院全体としての中間発表会や修士論文の全体を掲載する論文集発行の試みは、修士課程のみからなる人文社会系の大学院ではあまり見られないことである。
- 平成27年度に文部科学省の実施する「大学の世界展開力強化事業—中南米等との大学間交流形成支援」に採択された「山形・アンデス諸国ダブル・トライアングル・プログラム」の教育プログラムに積極的に取り組んでいる。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

3. 地域教育文化学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 9)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 10)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 児童教育コースでは教職大学院実践研究科進学を前提とした、また文化創生コースでは地域教育文化研究科進学を前提とした6年一貫教育カリキュラム「チャレンジプログラム」（各コース定員5名）を、両コースともに置き、実践的課題解決能力と地域協働能力の高度化を図った。
- 小学生以下の子どもを対象とした「ピクニックコンサート」の実施等、専門科目で学んでいる知識・技能を地域課題の解決を目指して総合的に活用し、企画・運営・実行して行くPBL科目群「フィールドプロジェクト」を、必修科目カテゴリーの「中心科目」内に配置し、学生の自主性及び実践力を高めた。
- 専門教育で学んでいる知識を社会の中で総合的に活用して企画・運営・実行していく実践演習群である中心科目「フィールドプロジェクト」の他にも、「地域文化創生演習」、「文化創造フィールドワーク」、「地域ファシリテーター実践演習」等、専門分野の実験・演習科目も、地方自治体・民間団体・企業の協力を得て、地域を学びの場として実施して成果を上げている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 地域教育文化学部学生のうち、平成 30 年度は学校図書館司書資格取得者が 22 名、社会教育主事資格取得者が 7 名いた。
- 山形大学では、平成 22 年度から 5 年ごとに、卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生を対象に「山形大学の「教育力」に関するアンケート」を全学的に実施している。当アンケートにおいて、地域教育文化学部における習得能力、総合的評価、役立ち度等について、概ね肯定的な評価（「そう思う」「どちらかというと思う」）を得ている。

まず、習得能力については、8割以上が「人間性の豊かさ」「専攻した学問の体系化された知識や技術」「コミュニケーション能力」、7割以上が「豊かな教養による社会を見る上での広い視野」「礼儀やマナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性」「問題を発見し解決する能力」「柔軟な発想や豊かな創造力」を習得できたと回答している。

次いで、総合的評価については、9割以上が「自分自身を成長させた」、8割以上が「知識や技術が向上した」、7割以上が「人間形成が図れた」「ネットワーク（人脈形成）が作れた」と回答している。

さらに、教育内容の役立ち度については、7割以上が「役に立っている」「どちらかというとも役に立っている」と回答している。

4. 地域教育文化研究科

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 12)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 13)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 山形大学附属心理教育相談室の実習のみならず社会における以下のような心理実践施設と連携し、専門的な心理分野における能力を発揮し社会に貢献できる「臨床心理実習」を教育課程に位置づけて、有効に実施している。

連携協力機関

- ・上山教育センター ・山形少年鑑別所 ・二本松会若松病院
- ・児童養護施設山形学園 ・NPO 法人発達支援研究センター
- 教育の国際性を推進するために、講義「地域スポーツ文化論」において、大学間締結を結んでいる台湾師範大学運動・レジャー学院の学生と交流し実施している。台湾訪問前に、台湾の歴史やスポーツを中心とした文化的特性を調査し、各自が興味をもった台湾文化について探求する「テーマ」を決定する。その後、台湾を訪問し、互いの研究発表や師範大学の学生が考案した「日本人大学生を対象としたスポーツ・ツーリズムプラン」を実践した。さらに、事前に掲げた「テーマ」の調査を実践し、帰国後に研究成果を発表した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 卒業・修了生に対するアンケート調査を、山形大学で実施予定であった企業ガイダンス（例年約 200 社強が参加）で依頼することとしていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となったため、実施することができなかった。

そのため、本項目では、平成 28 年度から、地域の企業等の皆様に参画いただいている「山形大学アライアンスネットワーク」の企業様に毎年、実施してきた全学的なアンケート調査の結果を参考として示す。卒業・修了生の習得能力、採用満足度等について、概ね肯定的な評価（5つの選択肢を得点化したスコア）を得ている。

まず、修了生の印象について、「課題を設定し解決する力」で 3.6、「深い専門知識・技能」「総合的なものの見方」で 3.5、「計画性を持って取り組む力」「コミュニケーション能力」で 3.4「物事に進んで取り組む力」「高い倫理観」「情報を収集し状況や物事を整理し理解する力」で 3.3 と高いスコアを得ている。

次に、修了生の採用満足度については、62.5%が「大いに満足している」、37.5%が「どちらかという満足している」と回答している。

そして、修了生の採用意欲については、78.1%が「大いに採用したい」、12.5%が「どちらかという採用したい」と回答しており、肯定的評価の割合は 90%以上の回答を得ている。

なお、上記の結果については、平成 30 年からの経年においても同様の傾向が示されている。

5. 医学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 15)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 16)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 内部質保証体制である「教育ディレクター制度」に基づき、学部統括教育ディレクターと学科・コースごとに任命している教育ディレクターが連携し、学生が獲得すべき知識・態度・能力等の記載方法などを全学的に調整するなどして、学部のみならず、大学として整合性のある内容で策定・公表している。
- 令和元年度に、「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」をベースに山形大学として特に重点を置く教育内容をまとめ、「山形大学版モデル・コア・カリキュラム」として使用開始した。
- 看護学科では、各科目の筆記試験および実技試験とともに、客観的看護実践能力試験（OSCE）、卒業試験にあたる統合特別試験により、学生の総合力を評価し、国家資格を得るために必要な知識と技術を習得したと認められるものを卒業させている。
- 平成 30 年度に重粒子線がん治療等に係る包括的な国際交流協定を締結した韓国の延世大学から、単位互換によらない特別交流プログラム（令和元年 8 月 23 日～8 月 29 日）において 4 名の学生を受け入れ、医学部学生との交流、臨床実習見学や附属病院見学等を実施した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 高い質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

平成 28 年度に「大学教育再生加速プログラム テーマⅤ 卒業時における質保証の取組の強化」に採択され、学修成果の到達度を測定するための基盤力テストを実施し、学修成果の可視化を行っている。

〔優れた点〕

- 平成 28 年度に文部科学省「大学教育再生加速プログラム テーマⅤ 卒業時における質保証の取組の強化」の採択を受け、山形大学における基盤教育の到達度を直接測定するための「基盤力テスト」を開発、実施している。そのうえで、山形大学の学部生全員を対象に入学時、1 年終了時、3 年次に実施し、その結果をディプロマ・サプリメント（学修成果の可視化資料）として提示している。

6. 医学系研究科

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 18)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 18)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 連携4大学（東北大学・福島医科大学・新潟大学・山形大学）が大学院に新たに55教育コースを設置し、東北メディカル・メガバンク、小児がん拠点病院、個別化医療センター、重粒子線がん治療センター、医療・産業TRセンター、臨床研究推進センター、東北家族性腫瘍研究会等、ゲノム医療、希少がんや小児がん対策に重要かつこの地域がもつ国内外で有数の医療・医学インフラを活用した広域かつ高度先進的教育プログラムにより、先進的がん専門医療人を養成して我が国のがん対策の目標達成や医療の発展に取り組んでいる。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 先進的医科学専攻の放射線未来科学コースでは、課程修了により「医学物理士」の認定試験の受験資格が得られる。（厳密に述べると、修士2年時から受験は可能になる。）令和元年度に初めて放射線未来科学コースに在籍する学生が「医学物理士」の認定試験に合格し、医療現場で求められている専門性の高い、高度な知識を備えた学生を輩出した。

7. 理学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 20)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 21)

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 学生に多様な社会体験の機会の提供および就業意識の醸成のため、改組時に 2、3 年次学生対象のキャリアデザイン 2 科目（選択科目）を 1、2、3 年次対象の 3 科目に充実させるとともに、各学年約 220 名の 1、2 年次学生については履修を必修とした。
- 学生の英語力に係る主体的学修の向上を図るため、TOEIC 等の外部試験の申込および受験料の支援、国際学会や語学研修等参加への経済支援を行っている。
- 各学期始めに、アドバイザー教員を通じて手渡しで前学期の成績表を配付し、学生個々の就学状況に応じた個別指導・学修支援を実施している。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況**〔判定〕 高い質にある****〔判断理由〕**

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

山形大学アライアンスネットワーク参加企業に対して行ったアンケート調査において、卒業生採用については、肯定的評価の割合が 96.9%となっている。また、大学院進学を目指す学生を対象としたフロンティアプログラムを設け、大学院との接続性を高めた 6 年一貫教育を実施している。

〔優れた点〕

- 卒業生の採用意欲については、山形大学アライアンスネットワーク参加企業に対して行ったアンケート調査のとおり 81.3%が「大いに採用したい」、15.6%が「どちらかというとなら採用したい」と回答しており、肯定的評価の割合は 97%に迫る回答を得ている。

〔特色ある点〕

- 平成 29 年の改組により、大学院進学を目指す学生を対象としたフロンティアプログラムを設け、大学院との接続性を高めた 6 年一貫教育を実現し、高い研究能力を備えて多方面で活躍できる専門職業人の育成を行っている。
- 平成 28 年度に文部科学省「大学教育再生加速プログラム テーマⅤ 卒業時における質保証の取組の強化」の採択を受け、山形大学における基盤教育の到達度を直接測定するための「基盤力テスト」を開発、実施している。当該テストは 6 つの領域（文系用の「数的文章理解」「語彙力」、理系用の「数学」「物理」「化学」「生物」）で構成され、実施に当たっては、限られた時間で効果的かつ効率的に実施できるよう現代テスト理論（項目反応理論）を取り入れるためのスマートフォンアプリである「YU Portal」を独自開発している。

8. 工学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 23)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 24)

分析項目 I 教育活動の状況**〔判定〕 高い質にある****〔判断理由〕**

教育活動の基本的な質を実現している。

柔軟かつ体系的な教育課程の編成、授業科目の内容の適正化に向けた取組として、米国のカリキュラム・マッピングの手法を取り入れたカリキュラム・チェックリストを教育プログラムごとに作成している。

〔優れた点〕

- 柔軟かつ体系的な教育課程の編成、授業科目の内容の適正化に向けた取組として、米国のカリキュラム・マッピングの手法（I:Introductory、R:Reinforce/Practice、M:Mastery、A:Assess）を新たに取り入れたカリキュラム・チェックリストを教育プログラム毎に作成している。
- 「次世代アントレプレナー育成事業（EDGE-NEXT）」において、平成29年度より、早稲田大学を主幹機関としたコンソーシアムを活動中。中間報告では最高評価のS（Sが3項目）を獲得した。山形大学の独自プログラムである「起業家育成教育（基礎編）」では、起業家に必要な精神とスキルを習得する授業を開講し、平成30年度、令和元年度の2年間で大学生170名、社会人45名が受講した。

〔特色ある点〕

- 社会・産業界や地域と連携した学修活動を通じて課題発見・解決能力を身につけるために、概算要求プロジェクトとして支援を受けた取り組みである「イノベーション創出人材の育成に向けた技術経営能力早期習得教育プログラムの構築」の一環として、米沢市役所から出された課題をもとに学生がチームで解決案を生み出し、実践する科目（「キャリア形成特別講義」「産業理解特別講義」）を開講した。
- 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う授業科目として、自らの将来について主体的に考えるアクティブラーニングを行う講義を設置している。キャリア形成論およびキャリアプランニングは第2期中期目標期間から増加を続けており、令和元年度にはそれぞれ248名、51名が履修した。
- 「産学金連携プラットフォーム」では、県内の地域金融機関（3銀行、4信用金庫、3信用組合、2政府系金融機関の県内支店）の職員を対象として産業支援人材を育成した。金融庁の「金融仲介機能の発揮に向けたプログレスレポ

ート」(令和元年8月)には大学としては唯一ベストプラクティスとして掲載された。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 平成28年度に文部科学省「大学教育再生加速プログラム テーマⅤ 卒業時における質保証の取組の強化」の採択を受け、山形大学における基盤教育の到達度を直接測定するための「基盤力テスト」を開発、実施している。当該テストは6つの領域(文系用の「数的文章理解」「語彙力」、理系用の「数学」「物理」「化学」「生物」)で構成され、実施に当たっては、限られた時間で効果的かつ効率的に実施できるよう現代テスト理論(項目反応理論)を取り入れるためのスマートフォンアプリである「YU Portal」を独自開発している。

9. 理工学研究科

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 26)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 27)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 特筆すべき高い質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

博士課程教育リーディングプログラムとして平成 24 年度に採択された「フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院」を、創造性と主体性を持ったグローバルリーダーの養成として第 3 期中期目標期間においても継続実施し、平成 30 年度に実施された当該プログラムの事後評価において S 評価を得ている。

〔優れた点〕

- 平成 24 年度採択の博士課程教育リーディングプログラム（オンリーワン型）「フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院」を継続し、創造性と主体性を持ったグローバルリーダーの養成に注力し、本プログラムの事後評価（博士課程教育リーディングプログラム平成 24 年度採択プログラム事後評価について）において、最高評価の「S」評価を得た。

〔特色ある点〕

- 柔軟かつ体系的な教育課程の編成、授業科目の内容の適正化に向けた取組として、米国のカリキュラム・マッピングの手法（I: Introductory、R: Reinforce/Practice、M: Mastery、A: Assess）を新たに取り入れたカリキュラム・チェックリストを教育プログラム毎に作成している。
- 山形大学大学院博士前期課程のすべての専攻で共通に開講される大学院基盤教育科目を編成し文理横断教育を展開して、知の総合的な推進力を育成している。
- 博士後期課程において、地球共生圏科学に対する視野を広め問題提起・解決能力を養うため、学外の研究施設や機関、産業の現場、学内の他の専門分野の研究室などにおいて、主専門分野以外の領域の研究開発等に携わる実習科目「特別計画研究」を全学生の必修科目としている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔優れた点〕

- 平成 24 年度採択の博士課程教育リーディングプログラムの代表的な成果として、1 期生（平成 29 年度修了生）の発表論文数は 1 人平均 7 報（理工学研究科）、国際学会発表件数は、1 人平均 7 報（理工学研究科）のほか、従来の学生よりも高い研究力を示している。

10. 有機材料システム研究科

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 29)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 29)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 学術動向や社会ニーズに即した教育プログラムを構築するために、平成 24 年度採択の博士課程教育リーディングプログラム（オンリーワン型）「フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院」を継続し、創造性と主体性を持ったグローバルリーダーの養成に注力している。
- 修士論文発表・博士後期課程入試を行わない 5 年一貫コースを導入するため、カリキュラム構築と並行し、QE（Qualifying Examination: 博士課程研究基礎力試験）規程、ECE（End-of-Course Examination: コース修了試験）規程、活動評価方法、自己評価方法等の整備を行った。
- 国際通用性を高めるために、全ての専門科目（前期課程 42 科目）を「英語可」科目とし、留学生が希望した場合に日本語と英語を併用している。また、アクティブラーニング形式による科目として「Project-Based Learning（PBL）」、「フレックス大学院国際共同研究（長期海外インターンシップ）（29 名）」を実施している。
- 「留学生就職促進プログラム」において、山形県及び県内企業と連携し、県内企業バスツアー（計 7 回、24 社、参加学生のべ 6 名）、留学生のための合同企業説明会（年 1 回、のべ 45 社、参加学生 2 名：令和元年度中止）を実施している。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

11. 農学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 31)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 32)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 高い質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

「食—農—環境連携を担う人材育成事業」に基づき学部の国際化を推進し、日本人学生派遣数及び留学生受入数がともに増加し、このうち留学生受入数は鶴岡キャンパス全学生数の10%を超えている。また、鶴岡市立農業経営者育成学校開校に向けた連携協定を締結し、第1期生の募集を始めている。

〔優れた点〕

- 平成28年度から実施している「食—農—環境連携を担う人材育成事業」に基づき、学部の国際化を推進している。日本人学生の派遣数及び留学生の受入数ともに飛躍的に増加し、留学生受入数（短期・長期の合計）に関しては、平成29年度からは鶴岡キャンパスで学ぶ全学生数の10%を超えている。

〔特色ある点〕

- 鶴岡市、鶴岡市農業協同組合（JA 鶴岡）、庄内たがわ農業協同組合（JA 庄内たがわ）、東北芸術工科大学、地元民間企業との間で、地域農業の担い手育成と確保のために鶴岡市立農業経営者育成学校（SEADS）を開校に向けた連携協定を令和元年10月に締結し、第1期生の募集を始めた。
- 農林水産省が推進する農業女子プロジェクト「チーム“はぐくみ”」に国立大学として初、東北の教育機関として初めて参加し、やまがた農業女子ネットワークと連携して「地域がはぐくむ未来の農業女子プロジェクト」を進めている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 平成 28 年度に文部科学省「大学教育再生加速プログラム テーマⅤ 卒業時における質保証の取組の強化」の採択を受け、山形大学における基盤教育の到達度を直接測定するための「基盤力テスト」を開発、実施している。当該テストは6つの領域（文系用の「数的文章理解」「語彙力」、理系用の「数学」「物理」「化学」「生物」）で構成され、実施に当たっては、限られた時間で効果的かつ効率的に実施できるよう現代テスト理論（項目反応理論）を取り入れるためのスマートフォンアプリである「YU Portal」を独自開発している。

12. 農学研究科

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 34)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 34)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔優れた点〕

- 研究科共通科目の「国際理解（海外研修）」の開講、ハノーヴァー大学（ドイツ）とのダブル・ディグリー・プログラム及び国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムへの採択等により研究科の国際化を推進した結果、日本人学生の派遣数および留学生の受け入れ数ともに飛躍的に増加した。留学生受入数（短期・長期の合計）に関しては、平成 29 年度からは鶴岡キャンパスで学ぶ全学生数の 10%を超えている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔優れた点〕

- 学生の研究実績として、第 7 回植物生理化学シンポジウムでの最優秀奨励賞、第 17 回世界湖沼会議での Best Presentation Award (Poster) など、学会、協会等からの 12 件の賞を受賞している。

〔特色ある点〕

- 平成 30 年度に修士 2 年生を対象に実施したアンケート調査では、「講義は修士レベルの知識を修める上で役に立ったか」との質問には 82%が役に立ったと回答している。また、「修士論文研究では立案・計画から論文作成まで自分の力を発揮できたか」との質問には、すべての回答者より「十分発揮できた」「ある程度発揮できた」との回答を得ている。

13. 教育実践研究科

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 36)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 36)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 平成 29 年度より、山形大学地域教育文化学部児童教育コースの学生を対象に、大学 1 年次から大学院までの 6 年一貫プログラム（チャレンジプログラム）を設けている。
- 小規模へき地教育の授業においては、複式学級での授業や学級経営について学ぶとともに、山形市内及び近隣地区の小規模校での訪問調査や授業参観を実施している。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔優れた点〕

- 現職教員院生は、教員歴 10 年～15 年の中堅教員が中心であり、修了後には各学校でミドル・リーダーとして活躍している。特に、教育委員会の指導主事として勤務する者も出てきている。また、修了後数年で管理職（教頭）になった者もいる。平成 31 年 3 月修了までの現職教員修了生（1 期生から 9 期生まで）92 名のうち、管理職（教頭）13 名、指導主事 18 名であった。